里親学生支援室だより　NO. 6

発行日：2011/4/15　　発行元：里親学生支援室

2011/3/15(火)・16(水)

大津市西部地区・草津方面で宿泊研修を実施しました！

『地域「里親」による医学生支援プログラム』（略称「里親ＧＰ」）の事業として、「大津市西部地区・草津方面の医療と歴史・文化を学ぶ」と題し、３月１５日（火）～１６日（水）の２日間、宿泊研修を実施しました。

今回の宿泊研修は、実施前週の３月１１日（金）に、東北地方太平洋沖地震が発生し、東日本の広域に甚大な被害がもたらされたことから、実施の適否について関係者で協議の結果、「観光目的の研修ではなく、こんな時だからこそ地域の医療の大切さを理解する必要がある」と考え、訪問施設等のご理解もいただいたうえで、予定どおり実施しました。バスでの出発に際しては、震災でお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りし、全員で黙祷を捧げました。

１日目は、滋賀県立精神医療センター・近江草津徳洲会病院・草津総合病院を外観見学の後、**比叡山延暦寺**へと向かいました。阿弥陀堂では、室員で解剖学講座准教授の相見先生から、毎年５月にこのお堂で営まれる滋賀医科大学の解剖体納骨慰霊法要の様子などの説明を受けた後、根本中堂を拝観しました。昼食の後は、横川の山道を３０分程度歩き、献体いただいた方々の御遺骨が納骨されている**大学霊安墓地**へ向かい、参加者全員で溝掃除など清掃作業を行い、最後に黙祷を捧げて下山しました。その後は２班に分かれて、**坂本民主診療所**と**ケアタウンからさき**を訪問しました。

坂本民主診療所では、診療所開設３０周年を記念して作成されたＤＶＤの映像を基に、施設長から診療所の沿革や概要についてご説明いただき、その後、入所施設や通所リハビリエリア、多目的ホールや外来エリアをご案内いただきました。

ケアタウンからさきでは、在宅部長から老人介護を中心にご説明いただき、「歳をとるということ」のお話を伺った後に、ご自慢の檜風呂をはじめ食堂や交流スペースを見学させていただきました。

宿泊場所での**交流会**では、**第１部**として、**おち医院　院長の越智眞一先生**に「大津地域の医療」というテーマで地域における医療活動の実情等について、大津市医師会会長としてのお立場からもご講演いただきました。**第２部**では、訪問先の先生や滋賀医大の先輩方、里親・プチ里親・学外室員の方々など１３名の方にご参加いただき、学生たちも質問や自分の意見発表をするなど貴重な情報交換・交流の場となりました。

２日目は、時折雪の舞う中、堅田の**浮御堂**の見学の後、**日吉・坂本地区**を散策しました。日吉大社や穴太衆積みの石垣と白壁に囲まれた延暦寺門跡寺院・滋賀院門跡など歴史と文化を感じることができました。午後からは、前日同様２班に分かれ、**大津市民病院**と**大津赤十字病院**を訪問しました。

大津市民病院では、院長のご挨拶のあと、感染症病棟など、院内を案内していただきました。またヘリポート見学では、はじめての学生もおり驚きの声が上がっていました。透析室では透析に関しての説明を受け、緩和ケア病棟では、ちょうどコンサートが開かれていて、その様子やマタニティ教室の様子も見学させていただきました。

大津赤十字病院では、１００周年記念ＤＶＤを視聴させていただいた後、本学卒業後、同院に勤務している医師や看護師の各先輩から、「働きがいや医療について思うこと」と題してお話をいただきました。その後、救命救急センター、備蓄倉庫、ＮＩＣＵを見学させていただきました。いずれも県下に誇れる施設との説明もあり一同納得の内容でした。

今回の研修もまた、たくさんの方々のご協力によりとても有意義で、学生達が地域の医療や今後の進路を考えるうえで貴重な体験となりました。

坂本民主診療所　日和の里にて

これからも多くの人に支えられている事を心に残しながら今後、医師になった時に多くの人たちに与えられた以上のものを還元していきたいと強く思った。〈医学科　１年〉

学年があがるにつれ少し意識も高まってきたこともありますが、訪問先の病院で、研修医１、２年目の方々の経験談を聞かせていただけたことは非常に参考になりました。〈医学科　３年生〉

交流会　第2部　にて

この研修を通じて私が学んだことは、医療はさまざまな職業・立場の人との協力が大切であることです。私は看護師として滋賀の医療に貢献したいと、この研修によってモチベーションが高まりました。〈看護学科　１年〉

滋賀県で活躍されている先生方のお話を伺うことで、それぞれの地域の現状を知ることもできました。この研修は普段ならなかなかできない経験ができとても勉強になるので、次回も是非参加したいです。〈医学科　１年〉

大津市民病院　ヘリポートにて

新聞の字面を追っただけでは漠然とした把握しかできず、現実の地域医療を目の当たりにし、またそれに携わっておられる先生方の生の声をきき、現実にそういった病院を見せていただくことで、「患者さん」とではなく「人」や「地域」と接する医療とはどういうものなのか、また、中核病院との協力体制の必要性を感覚でも理解することができました。
〈医学科　２年〉

比叡山横川・大学霊安墓地にて

調べるだけではわからないことも時にはあります。現場の声といったものを実際に伺えることがこの里親 GP の最も魅力的な部分でした。この与えてくださった機会を存分に生かし、将来、立派な看護師になりたいと意志を固めることができました。〈看護学科　１年〉

学生の感想文より

その地域の病院ごとに求められている医療も異なるということを研修のたびに実感します。いろいろな病院・施設を見て、その各々の役割を知り自分がどのような形で医療に貢献できるのかを考えるのは大きな意味があると思います。〈医学科　２年〉

日吉大社にて

患者さんたちの明るい表情から、直接的な治療行為のほかに医療としてできることについて考えさせられました。〈医学科　３年〉

私はこの里親研修で、ただ大学に通っているだけでは学べなかったことを学ばせてもらったし、たくさんのことに興味を持ち視野も少しは広がったのではないかなと思います。〈看護学科　２年〉

大津赤十字病院　にて

ケアタウンからさき　にて

横川・霊安墓地に今回初めて訪れましたが、私たちが解剖させていただく献体に登録されておられる方が多くいらっしゃること、そしてその墓地を毎年掃除してくださる方もいらっしゃることを聞いて、本当に私たちは地域の方に支えられているのだなということを改めて実感することができました。〈医学科　１年〉

自分のやりたいことを改めて考えることができました。自分のやりたいことが少しずつ明確になっていき、実際にどんなものかを直接働いている人から話を聞けるので、貴重な体験をさせてもらい、とても感謝しています。〈看護学科　２年〉

里親 GP のホームページ
（http://satooya.shiga-med.ac.jp/）